資料

板額御前の生涯（要約）

板額御前、正式な名は不明だが、一般的には板額御前と呼び親しまれている。誕生の地中条町に飯角の地名が残されている事からして、飯角（いいずみ）御前と呼ぶのが正しいのではないかとの説もある。今風に云えば、姓は城で名は板額と云うことになる。

板額の年齢は、文献等から建仁元年（一二〇一年）鳥坂城落城の推定年齢は三十歳前後とされているので、ここでもその説に従って生い立ちを整理してみたい。

板額御前は、平安時代も終わりに近い、承安二年（一一七二年）越後国奥山荘飯角（現中条町飯角）の山居寺城にて越後国名門豪族の城資国の娘として誕生。母は出羽国の名門、清原武衡の孫娘と伝えられている。（系図参照）

板額（飯角）姫は幼い頃から学問・武術に優れた才能を発揮し、領地管理のために留守がちの父や、兄たちに代わって、長兄資長（すけなが）の長男、城小太郎資盛の教育にあたるなど、資盛の後見人として鳥坂城の運営に努めたので、若くして御前と呼ばれるようになった。

板額が十歳前後の頃、平氏の勢力にも陰りが見えはじめ城一族も源平争乱の渦に巻き込まれて行く。

木曽義仲討伐に大軍を率いて信濃（長野県）横田河原に遠征した長茂を大将とする城軍は木曽軍に大敗北、逃げ帰った長茂は会津（坂下町）へ隠棲、やがて壇ノ浦で平家滅亡、鎌倉に幕府を起こした源頼朝は全国に守護・地頭を派遣し、奥山荘（中条）にも西暦一一九二（建久三年）和田宗実が赴任。

この頃板額御前二十歳、すでに立派な女武将に成長しており、城氏祖先の国に対する功績なども手伝って和田宗実も城氏には簡単に手を付けられなかった。

当時、鎌倉に上がり源頼朝の許しを得るべく梶原景時に囚人として預けられていた長茂は許されて奥州討伐に参戦、認められて源氏の家臣に加わったので奥山荘は安泰、小太郎資盛も板額御前とともに逞しく成長し、平和な日々を過ごしていた。

ところが西暦一二〇一（建仁元年）正月、兄長茂が源頼家打倒の謀反を起こし失敗、京の吉野山で打たれてしまう事件が発生、このことが原因で城氏の拠点、越後奥山荘は幕府軍の討伐を受けることになった。

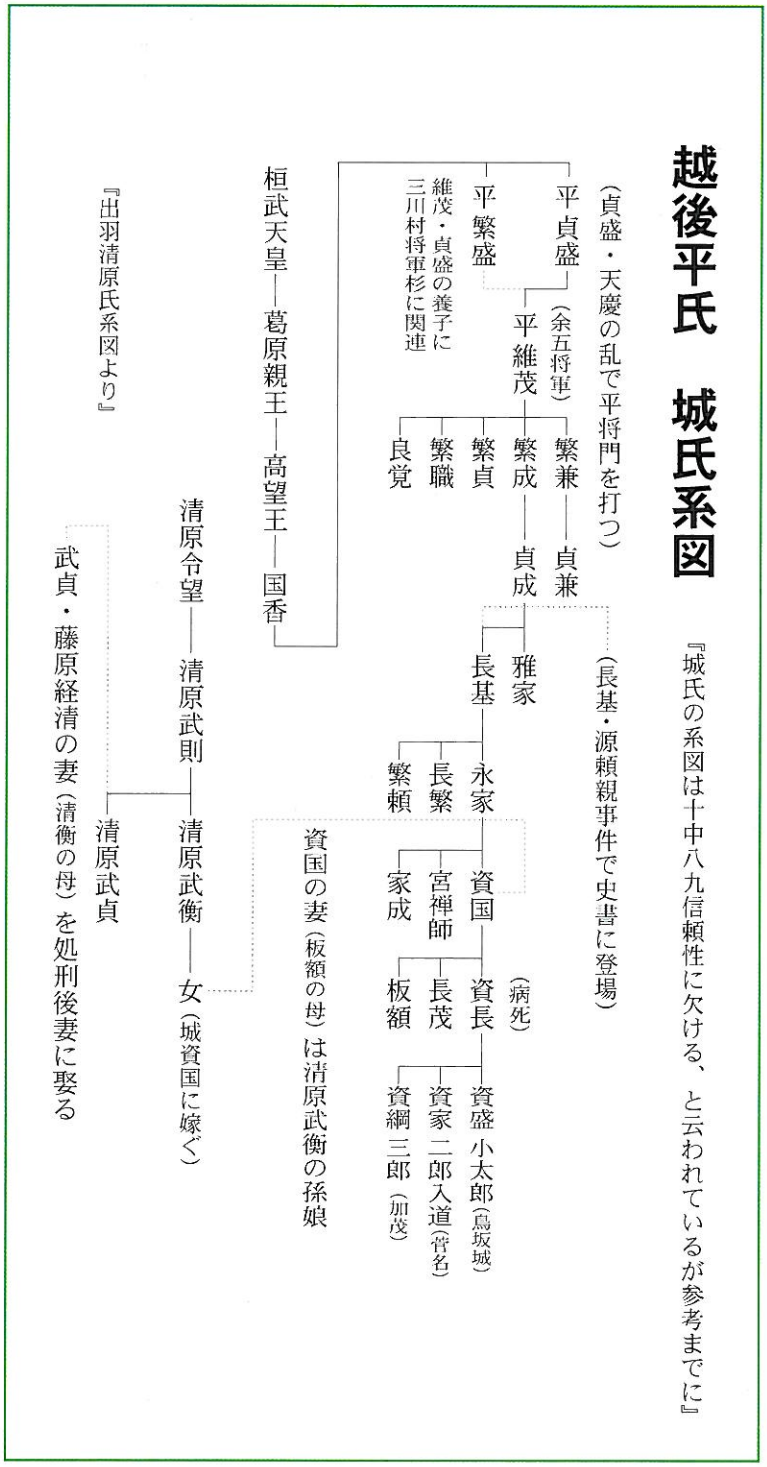
五月、佐々木盛綱率いる大軍が板額御前・城小太郎資盛の守る鳥坂城を攻撃、板額・資盛の善戦も空しく鳥坂城は落城、これを建仁元年の鳥坂城の戦いと云う。

この戦いで板額御前の奮戦は目覚ましく、女ながら剛弓の腕前は敵味方を驚愕させたと、吾妻鏡も伝えている。

板額御前の名声はたちまち全国に広まり、源頼家も一目見たいと鎌倉へ連行を命じ、六月、鎌倉で二代将軍源頼

越後平氏　城氏系図

『城氏の系図は十中八九信頼性に欠ける、と云われているが参考までに』



家と対面した話は有名。

この時、甲斐国（山梨県）の武将浅利与一義成が板額御前を妻に貰いたいと頼家に申し出た。

終いに頼家はこれを許し、板額御前は浅利与一義成の妻として浅利氏の本拠地、甲斐国豊富村に赴いた。この時、浅利氏五二歳、板額御前三十歳。

この頃、浅利氏は秋田県比内郡（現・北秋田郡・大館市・比内町一帯）の地頭となり板額も浅利氏と共に秋田を訪れていると云う説もある。

浅利氏はその後、嫡子知義以降五代にわたって比内郡を統治したと伝えられ、浅利氏の菩提寺などが現存している。

山梨県の境川村は浅利氏と板額の間に生まれた娘が嫁いだ石橋家のあった地で、ここでは板額御前を板額姫と呼んでいる。

（文・五十嵐　力）

板額御前生誕の地「中条」

越後城氏にまつわる年表

西暦	和暦	主な出来事
九四〇	天慶3年	平将門の（天慶の乱）で平貞盛功績をあげる
九八八	永延2年	平重範　会津に攻め入り坂下に八館を築く
一〇五〇	永承5年	平繁成　出羽城介に　城氏の開祖か
一一一七	永久5年	城長基　源義親事件で文献に
一一三三	長承2年	奥山荘初見
一一四六	久安2年	城資国三条五十嵐に城を築く「異本塔寺長
一一七二	承安2年	城長茂　会津恵日寺乗丹坊に小川庄（現・東蒲原郡）を寄進。明治初期まで福島県となる。
一一七二	推定	板額御前奥山荘飯角山居寺城（中条）で誕生父・城資国　母は清原武衡（出羽）の孫娘
一一七六	安元2年	乙宝寺と資長の記述「県資料7」
一一八一	養和元年	城長茂長野横田河原で木曽軍に敗れる
一一八二	寿永元年	城長茂　越後守平助職「玉葉」
一一八五	文治元年	長茂小川庄赤谷に隠棲「吾妻鏡」
		会津坂下との説もあり（坂下に史跡あり）
		平氏壇ノ浦で滅亡
（これより1598年までを中世と呼ぶ）		
一一八八	文治4年	長茂　許されて源氏の御家人に「吾妻鏡」
		長茂の先祖（平貞盛か）の功績の記述あり
一一八九	文治5年	城長茂　奥州合戦に参戦
一一九〇	建久元年	佐々木盛綱　加治庄地頭に
平安時代おわり・鎌倉時代となる		
一一九二	建久3年	奥山荘地頭に和田宗実
一一九九	正治元年	源頼朝没
一二〇〇	正治2年	梶原景時暗殺される
一二〇一	建仁元年	正月　長茂謀反失敗　吉野山で討たれる
		五月十四日　鳥坂城を討伐　城氏滅亡「吾妻鏡」
		六月　板額鎌倉へ連行され源頼家と対面
一二〇一	建仁元年	六月　浅利与一義成の妻となり甲斐国へ

（関連資料）

浅利与一義成が秋田比内郡を受領したのは板額を娶った前後と思われる「比内町史」浅利氏の名が吾妻鏡に登場するのは文治5年6月9日の条を初見として嘉禄2年（1226）5月16日の条まで都合11回に及ぶ、時期としては約37年間にわたっている。「比内町史」

※表紙写真：後藤栄吉氏提供